【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成17年9月15日(2005.9.15)

【公開番号】特開2003-300719(P2003-300719A)
【公開日】平成15年10月21日(2003.10.21)
【出願番号】特願2002-103458(P2002-103458)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０１Ｂ　33/00
【ＦＩ】
　Ｃ０１Ｂ　33/00

【手続補正書】
【提出日】平成17年3月30日(2005.3.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　ジルコニウム、珪素、アルミニウムの３種の元素を必須とする複合酸化物であり、含有する各元素が酸化物としての重量濃度に換算して下記（１）、（２）、（３）に記載する範囲内にあり、且つ比表面積３０m^2／ｇ以上、細孔容積０．１cm^3／ｇ以上であることを特徴とする高耐久性球状無機多孔質体。
（１）ジルコニア３０～９５ｗｔ％
（２）シリカ４～６９ｗｔ％
（３）アルミナ１～２０ｗｔ％
【請求項２】
　該複合酸化物が、さらにマグネシウムを酸化物に換算して２０ｗｔ％以下の条件で含有していることを特徴とする請求項１記載の高耐久性球状無機多孔質体。
【請求項３】
　ジルコニウム、珪素、アルミニウムの各原料が下記（ａ）、（ｂ）、（ｃ）であることを特徴とする請求項１又は２記載の高耐久性球状無機多孔質体。
（ａ）コロイド平均粒子径３～７０ｎｍのジルコニアゾル
（ｂ）コロイド平均粒子径３～５０ｎｍのシリカゾル
（ｃ）アルミナゾルあるいはアルミニウム化合物
【請求項４】
　ジルコニウム、珪素、アルミニウムの各原料の混合スラリーもしくは該スラリーに無機物および／あるいは有機物を加えた混合スラリーを噴霧乾燥し、しかる後に３００～８００℃の温度範囲で焼成することを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の高耐久性球状無機多孔質体の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
　２．該複合酸化物が、さらにマグネシウムを酸化物に換算して２０ｗｔ％以下の条件で含有していることを特徴とする前記１記載の高耐久性球状無機多孔質体。

３．ジルコニウム、珪素、アルミニウムの各原料が下記（ａ）、（ｂ）、（ｃ）であることを特徴とする前記１又は２記載の高耐久性球状無機多孔質体。
（ａ）コロイド平均粒子径３～７０ｎｍのジルコニアゾル
（ｂ）コロイド平均粒子径３～５０ｎｍのシリカゾル
（ｃ）アルミナゾルあるいはアルミニウム化合物
４．ジルコニウム、珪素、アルミニウムの各原料の混合スラリーもしくは該スラリーに無機物および／あるいは有機物を加えた混合スラリーを噴霧乾燥し、しかる後に３００～８００℃の温度範囲で焼成することを特徴とする前記１～３に記載の高耐久性球状無機多孔質体の製造方法。
以下本発明を詳細に説明する。